

キヌツヤミズクサハムシ (スゲハムシ) *Plateumaris sericea* (Linnaeus)

【選定理由】

寒冷な湿原・湿地に生息する代表的な昆虫で、本県では限られた場所に残存しているにすぎない。開発や自然環境の変化に伴い減少傾向にある。

【形態】

体長：♂6.5～7.4mm、♀7.0～8.8mm。背面の色彩は銅色の個体が多いが変異が大きく、黒、紫、青、緑、黄、赤などの個体があり色彩変異が大きい。前胸背板には横シワが発達し、中央縦溝は深く連続する。背面は金属光沢があり、すべての足は金属色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

北設楽郡設楽町裏谷(長谷川・吉富, 1998)、  
豊田市田之土里湿地(高橋, 1988)。

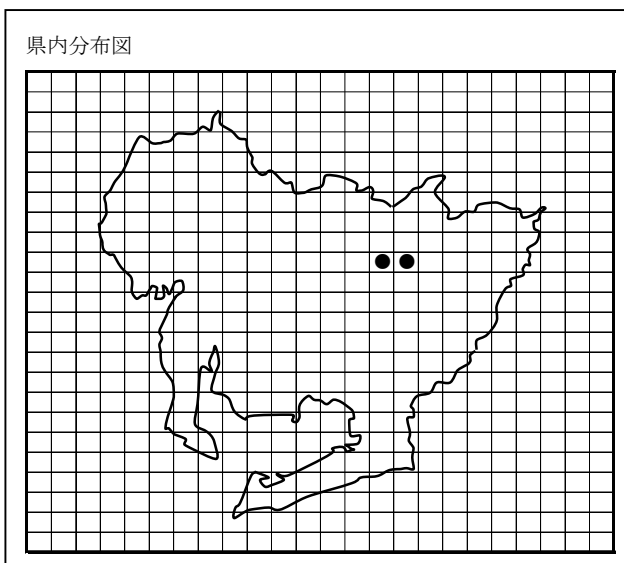
【国内の分布】

北海道、本州、九州、佐渡。

【世界の分布】

南千島、サハリン、カムチャッカ、アムール、ハバロフスク、プリモルスキー、朝鮮半島、中国、モンゴル、中央アジア、ヨーロッパ。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成虫は5～6月頃に出現し、スゲ類、イグサ属、ガマ属、アヤメ属、ミクリ属、ミズバショウなど多様な植物に訪花する。

【現在の生息状況／減少の要因】

湿原・湿地特有の種である。寒冷地に多い種で、長野県や岐阜県では産地も個体数も多いが、こうした環境の少ない県下での元々の生息域も山間部に限られていたものと思われる。今後、長期的な温暖化による影響で乾燥化が進めば、生息環境の悪化により衰退が心配される。

【保全上の留意点】

生息地の湿原・湿地の保全は、周辺部を含めた水源地の確保が重要である。広範囲にわたる森林の保護などの保全策を講じることが重要である。

【特記事項】

本種の正確な生息状況はまだ不十分な点が残されており、さらなる詳しい継続調査を必要とする。

【引用文献】

長谷川道明・吉富博之, 1998. 愛知県のネクイハムシ類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (8): 41-48.  
高橋和宏, 1988. ネクイハムシ類 1987年の採集記録. DONACIIST, (2): 22.

【関連文献】

木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会.  
野尻湖昆虫グループ, 1985. 日本のネクイハムシ. 野尻湖昆虫グループ.  
林 成多, 2004. 総説・日本のネクイハムシ亜科. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 29-126.

(2009年版を一部修正)